

二〇一九年八月二三日

野分あと山羊の草喰む島日和
乾杯は故郷の新酒同窓会

もところ
菜々

二〇一九年八月二二日

宮入に子供神輿の声高し
皺深き配車係の日焼顔
ビル街の狭き裏路地蔵盆
このだるさ冷房病を疑ひぬ

素秀
せいじ
宏虎
明日香

二〇一九年八月二二日

胸少し膨らみ初めし娘の浴衣
回復の兆しか母の顔さやか
相互ひ揺れて蒲の穂ぶつからず
ハイウェイカンナの燃ゆる分離帯
高階の右に左に遠花火
桃剥くや孫らの帰つてしまふ朝
夾竹桃真つ赤に燃ゆるハイウェイ

やよい
せいじ
菜々
智恵子
はく子
もところ
ぽんこ

二〇一九年八月二〇日

新涼や縄目きりりと四ツ目垣
卵とく朝餉の箸の音涼し
掃く人に声かけ朝の宮涼し
日の暮れを待ちきれぬ児の庭花火
枕辺のラジオを消せば虫の声

菜々
更紗
やよい
みづき
うつぎ

二〇一九年八月一九日

地藏盆子なき家へもお裾分け
天辺に梅肉の朱や湯引鱧
瞬ける一番星へおがら焚く

明日香
菜々
みづき

二〇一九年八月一八日

三輪山をしたがへつつと月昇る
夏期講座ひたすらペンの走る音

明日香
更紗

二〇一九年八月一七日

翅の裾ぼろぼろにして秋の蝶
秋暑し餌を欲る鯉の犇めきて
はしやぐ子が飲み込まれたるハンモック
能登島の古町灼くる黒瓦
遠花火郷関出でて幾年ぞ

明日香
満天
なつき
愛正
かかし

毎日句会みのる選・二〇一九年八月二三日